生活環境コース　子ども・環境・まちづくり

布絵でつくろう　住まいとまち

家政教育講座　曲田　清維

１．はじめに

「子ども・環境・まちづくり」は、生活環境コース３回生対象の選択科目であり、一方、学校教育教員養成課程家政教育専修には「住環境教育論」として提供しているものである。ただ、最近は家政教育専修生は同時間帯に必修科目が設けられているため、受講生は殆どいない状況が続いている。そのため今期の受講生は生活環境コースの１０名に止まった。

今年度の１５回のメニューは以下であり、特に東日本大震災を考慮して、最終版のワークショップでは、震災からの復興を念頭に置いたものを提起し、グループ作業を試みた。

第１回；環境から学ぶ－子どものための建築・都市 12 ヶ条
第２回；住まい・まちづくり学習とは
第３回；子どもの権利条約に見る環境計画への参加
第４回；子どもの社会力
第５回；子どもの遊び空間
第６回；五感で楽しむキャンパス樹木探検①
第７回；五感で楽しむキャンパス樹木探検②
第８回；学校建築と子ども
第９回；英国の環境教育
第 10 回；住まい・まちづくり学習の視点
第 11 回；絵本に見る住まい・まちづくり学習
第 12 回；ワークショップとは＋作戦会議
第 13 回；布絵ワークショップ①
第 14 回；布絵ワークショップ②
第 15 回；布絵ワークショップ発表と講評

２．授業の評価

授業評価については、資料及び個別の評価と全体評価の一部を紹介する。

(1)配付資料の内容と量

資料の適切さについて、その内容は「とても適切」（４人 40 %）、「まあ適切」（５人 50 %）、「普通」（1 人 10 %）、と大凡適切とされた。

資料のボリュームは結構多く、「とても適切」（1 人 10 %）、「まあ適切」（５人 50 %）、「普通」（３人 30 %）、「あまり適切でない」（1 人 10 %）、と受講生もやや持てあまし気味なことを表明している。種々の解説資料ゆえ、実際難解であるが、何とか食らいついて欲しい。

(2)資料の理解度

その理解については、「とてもよく理解できた」（８人 80 %）、「まあ理解できた」（２人 20 %）と適切なようだ。受講生との議論や事前学習を踏まえてのものであり、幾つかの丁寧な作業の結果と思われる。

(3)特別講師の刺激度

特別講師（非常勤講師・NPO 主催）の２回分の授業は、フィールドワーク（キャンパス樹木探検）とミニ作業を課してのワークショップである。

その刺激の具合は、「とても刺激的」（５人 50 %）、「まあ刺激的」（４人 40 %）、「普通」（１人 10 %）と、通常の授業に連ねて十分に刺激的なようだ。毎年、その時の話題を加えながらの語りは受講生には新鮮に映る（今回は東日本大震災と放射能汚染の問題）。

(4)全体を通しての理解度

授業全体を通して、理解が深まったかを尋ねた。「よく理解できた」（５人 50 %）、「まあ理解できた」（３人 30 %）、「普通」（１人 10 %）、「あまり理解できない」（１人 10 %）、と比較的良く理解されていると思われる。

なお、「あまり理解できない」とした受講生１名は、欠席がちでアンケートには氏名を記入して提出していた(他の受講生のアンケートは無記名)。

３．キャンパス樹木探検について

先の特別講師によるキャンパス樹木探検は大旨好評である。受講生の自由意見の一部をを以下記載する。

・普段、当たり前のように生活している身近なところから環境について目を向けることができる。
・樹木を擬人化したり、名前を付けたりすることで、樹木に親しみが湧くのは不思議だ。
・何気なく見ていたり、気づかずに通り過ぎ

ていた樹木に目を向けることで、新たな発見があった。
・自分自身を振り返り、そこから自然に目を向けることで自分と自然との繋がりをイメージとして感じることができてよかった。
・外に出て自分で発見することがどれだけ理解しやすいかが実感できた。
・自然と直接ふれあうことで、自分も自然と仲間であり、自然の一部なんだと言うことが感じることができた。
・自然環境について、普段気づかないようなことにも気づくことができてよかった。
・実際、行動しながら学ぶのが楽しかった。

４．布絵づくりについて

今回の試みは、東日本大震災に関連して、被害と復興の有り様を受講生がどのように感じ、表現できるかを試みたものである。

布絵づくりは、限られた時間で各人の思いが自由に表現でき、また協働作業がしやすく、教材にもうまく活用できるものとして位置づけられる。以下、受講生の自由意見である。

(1)協働作業で獲得できたもの

・グループメンバーの様々な意見を知ることができた（視野の広がり）。
・人に伝えることを通して、自分の意見を明確にできる。
・ひとつのものをグループで協力して完成させる姿勢がよい。
・ひとつのテーマについて伝えたいことを布絵で表現する活動は、創造力やグループ作業を通しての協調性が獲得できたと思います。
・自分の意見を言ったり、相手の意見を聞いて、自分たちの伝えたいことをよりうまく表すために吟味する力を身につけられる。他にも、役割分担して自分のやるべきところを見つけ出すようになった。
・自分たちのイメージを表現するために班の人と協力すること、布という素材を生かす力が獲得できた。
・班の人の色々な意見を聞き、様々な表現のしかたがあることを学べた。
・コミュニケーションの向上とチームで協力することの大切さ。
・班の仲間や自分の意見を尊重し合って協働作業ができた。とても楽しい時間だった。
・自分だけでは考えつかないイメージや意見を知ることができ、見方や感じ方が広がったと思う。協働することですごく素敵な発見ができたし、何よりも楽しんでテーマと向きあうことができたと思う。

(2)「再生」の表現の仕方

・再生について表現するのは難しく感じた。最初の下絵とは少し異なりましたが、災害の要因を取り上げることで、より「再生」への移り変わりを表現できたと思う。
・様々なつながりが再生するために重要という観点で布絵づくりをしたので、「つながり」と「再生する」ということについての表現はできたと思う。
・再生する前の状況をどこかに入れれば、もっと良く表現できたかなと思った。
・自分自身は体験していないことなので、なかなかストレートに表現できなかった。しかし、今、自分たちが考える「再生」については表現することができたと思う。

(3)「布絵づくり」の感想及び総合的評価

・布絵では土台となる布や構成など、殆ど自由に決めて作ることができたので、さらに幅広く表現できる。
・布というのは絵を描いて表現するよりも難しく色々な柄があったり、材質も異なるので、普通に絵を描くよりも「表現力」や「創造力」が付くのではないかと思った。
・文章や言葉ではないので、絵でどれだけ表現できるかがポイントになると思うが、それを見る人は布絵を見て自分の中でさらに想像を広げていけるのではないかと思う。
・布の色や柄が独特の味を出していて、面白かった。
・布絵の表現力のすごいところは、同じものはひとつとして作ることはできないことである。だからこそ、メンバーで作った一枚一枚のキルトに深みや重みを感じるのだと思う。再生というテーマがよく伝わってきて「その時のそのメンバー」であることが絶対条件であることも素敵だと感じた。

５．おわりに

「子ども・環境・まちづくり」では３つのキーワードを生かしつつ授業構成してきた。

最終作業としての今回の「布絵づくり WS」は、これまでにも地域のまちづくり WS で活用してきたが、本授業でもその効用は確かめられた。布の調達に難があるものの、自宅の古着や古布の再利用などとも関連づけることもでき、テーマも含めて広がりが持てそうだ。